

平成27年度平鹿地域保健医療福祉協議会献血推進部会 議事録

1 開催日時 平成28年 3月15日(火) 午後3時から

2 開催の場所 平鹿地域振興局福祉環境部2階 研修室

3 出席者

委員

番号	氏名	所属団体・役職名	出欠
1	藤盛 修成	横手市医師会 理事	出席
2	加藤 千里	秋田県薬剤師会横手支部 幹事	出席
3	前澤 弘子	横手市連合婦人会 会長	出席
4	長井 健	横手市健康推進課 課長	欠席
5	柴田 孝子	横手市赤十字奉仕団 委員長	欠席
6	伊藤 勉	日発精密工業株式会社	欠席
7	古関 秀行	秋田県高等学校長協会 会長	欠席
8	菅原 優子	横手市養護教諭研究会	出席
9	高橋 永	横手愛宕ライオンズクラブ	出席

秋田県赤十字血液センター

番号	氏名	職名等	備考
1	高嶋 和弘	事務部 献血推進課長	
2	佐藤 史奈	事業部 献血推進課 推進第一係 主事	

4 会議の成立

委員定数9名中5名の出席があり、条例の規程により本会議は成立した。

5 部会長の選出及び副部会長の指名

【委員の互選により藤盛委員を部会長に選出】

【藤盛部会長あいさつ】

【部会長の指名により加藤委員を副部会長に指名】

6 議 事

議長（藤盛部会長）

協議事項（1）献血の基本方針について

協議事項（2）平成27年度献血実施状況について

協議事項（3）平成28年度献血目標及び運行計画について

協議事項（4）献血事業の現状等について

事務局、秋田県赤十字血液センターから説明をお願いする。

事務局

協議事項（１）【献血の基本方針について説明】

協議事項（２）【平成２７年度献血実施状況について説明】

協議事項（３）【平成２８年度献血目標及び運行計画について説明】

高嶋献血推進課長（秋田県赤十字血液センター）

協議事項（４）【献血事業の現状等について説明】

議長（藤盛部会長）

以上で説明が終了しました。

意見交換に移ります。

7 協議（意見交換）

加藤委員

高等学校訪問献血実績の中で、平成高校が他の高校と比較すると少なく感じられますが、何か原因・理由等ありますでしょうか。

菅原委員

他の学校との比較はこの時点ではしておりませんでした。いつもより少ないという印象は受けていました。前年度の献血におきましては受付は多かった反面、事前指導を行っていたものの普段から貧血気味の生徒や当日朝に菓を飲んできてしまった生徒が多く、不適数が半分近くになりました。この点を踏まえまして今年度は事前指導を徹底して行い、制限したわけではありませんが受付時に大丈夫かどうかの声掛け等も行った結果、少なくなってしまったのではないかと思います。

事務局

高校訪問献血としては少ない数値となっておりますが、ふれあい献血キャンペーンのボランティアとして、一人二人ではなく十人二十人という単位でご協力いただいております。その時に自主的に献血にも協力してくれており、この部分は訪問献血上の数値には反映されておきませんが、その点を踏まえすと他の高校と同じかあるいはそれ以上の数値となることをご理解いただければと思います。

加藤委員

現在、400mL 献血は男性の場合だと 17 歳以上が可能となっておりますが、近い将来に 17 歳の女性あるいは 16 歳の男性が献血可能となることはあるのでしょうか。エビデンス等あれば教えていただきたい。

高嶋課長（秋田県赤十字血液センター）

採血の基準は最終的に国が決める形となっております。昨今の少子高齢という点も

含め、男性に関しては17歳に引き下げた一方で、上は男女共に69歳まで引き上げられています。これからどうなるかはわかりませんが、基準を変更する際には事前にデータ（体重50kg以下の方の割合、血色素量12.5以下の女性の割合等）の調査を十分に行ってから踏み込むものと思われます。最近では体格がいい若者も増えてきており、緩和される可能性はありますが、現状そういった話は出てきておりません。

高橋委員

啓発活動に「ポスター掲示」とありますが、薬物乱用防止啓発のポスターと違って献血のポスターというのをあまり見たことがないのが実態です。血液センターや市、保健所に貼るということですが、例えば駅や横手市役所といった人の集まる所にも貼ってもらえたらと思います。

事務局

薬物乱用防止啓発においては、中高生を対象としたポスター公募並びに展示会を行っております。献血のポスターに関しては、このような一般公募等について来年度の計画案に盛り込まれておりませんが、今回のような意見が出たということも兼ねまして、今後提案させていただきたいと考えております。

高嶋課長（秋田県赤十字血液センター）

補足させていただきますと、行政側でポスターを作成するというのは難しいと思っています。血液センターの方では、例えばはたちの献血キャンペーン、献血俳句コンテスト又は学生献血（ガクケン）等におけるポスターがありますが、枚数に限りがあり学校側に優先して配布しておりまして、人通りの多いところに張ることは可能ではありますが現状では難しいと思います。

前澤委員

ふれあい献血キャンペーン実施状況を見ますと、400mL献血が非常に多い一方、200mL献血は4月5月にしか出ていません。200mL献血よりも400mL献血を、ということになっているのでしょうか。以前、自分たちがふれあい献血キャンペーンのボランティアとして参加した時にも「今日は400mL献血のみ」という形で啓発を行い、中には「200mLなら献血できるのに」という方が何名かおり、その方達に対してお断りしなければならなかった時がありました。200mLではだめなのでしょうか。

高嶋課長（秋田県赤十字血液センター）

秋田県における200mL献血の供給本数は1日平均で4.7本と採血本数とのバランスが悪く、血液は有効期間が採血後21日である点も含め、有効に活用できない状況となっています。医療機関からの要求はほとんどが400mLであり、その際に200mLもお願いして渡しているのですが、受け取っていただけない機関もあります。こちら側としまして、医療機関から求められているものをお届けするという義務があり、また、高校献血

が集中します 9～11 月はその影響で特に 200mL 血液量が増えるため（秋田に限らず岩手、青森、宮城なども同様）、街頭キャンペーンや事業所献血では 400mL 献血のみに調整せざるを得なくなっている状態です。賛否両論があるのですが、その点に関してはお願いしたいと思っております。

事務局

200mL 献血は平成 22 年度から今年度に至るまでに数値が下がってきていますが、これは計画の中で目標値を意図的に下げているという部分があります。今の血液センターからの説明にもありましたが、血液を必要としている医療機関側での 400mL と 200mL の要求割合は 97:3 です。ふれあい献血キャンペーンの場合には 200mL 献血しか出来ない方々も来られ、その場その場で 200mL をいただいたりしている時もありますが、400mL の必要性という点を踏まえまして、400mL のみをいただいているというのが現状であります。

議長（藤盛部会長）

人口当たりの血液消費量は、秋田県は全国からみても多いと聞きましたがどの程度でしょうか。

高嶋課長（秋田県赤十字血液センター）

秋田県は全国で 4 番目となっております。

議長（藤盛部会長）

福岡県は 400mL 献血率、献血バス 1 稼働当たりの献血者数共に全国 1 位となっておりますが、福岡県の取り組みの中で秋田県に導入できそうな内容はありますか。

高嶋課長（秋田県赤十字血液センター）

福岡県は 200mL 献血の受付を 20 年位前から全く行っておりませんが、切り替えた当時は献血者数が少なくなり血液不足に陥っております。それを乗り越えた結果、現在では 400mL 構成比が 99%という数値になっておりまして、献血バス 1 稼働当たりの献血者数も非常に多いです。福岡県の取り組みの詳細についてはわかりませんが、昨年、福岡県同様 400mL 構成比等が多い愛媛県に出張に行った際に、血液センターを訪問・見学致しました。愛媛の血液センターでは 1 事業所に対し、打ち合わせ、献血前日、献血当日、献血のお礼、次回の打ち合わせ、と最低 5 回訪問するルールがあるとのこと。そういう地道な努力を重ね、その事業所のノウハウ等を伺い一番良い日に設定する、という点を徹底して行っている印象を強く受けました。秋田の血液センターでは去年の 8 月から営業専門の職員を配備し、対応しております。1 稼働当たりの献血者数はまだまだ少ないですが、前年度より 2 人増えている状況です。

議長（藤盛部会長）

今後、情報をたくさん取り入れ、導入することができるならば献血者数も伸びるのではないかと思う。

8 閉 会 (午後4時10分)